

1980 年 国際障害分類 ICDH

International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps

疾患が原因となって機能障害が起こり、それから能力障害が生じ、それが社会的不利を引き起こすという考え方

2000 年 国際生活機能分類 ICF

International Classification of Functioning, Disability and Health

障害や病気を持つ人だけでなくすべての人に適用できるモデル。障害というマイナス面ではなく、以下のように言い換える。

ICF	ICDH
心身機能・身体構造	機能障害
活動制限	能力障害
参加制約	社会的不利

	対象	健康状態の捉え方	背景因子
ICIDH	障害や病気の人	疾患や外傷	なし
ICF	全ての人	疾患や外傷、妊娠や加齢、ストレス状態なども含む	環境因子 個人因子

ICF と ICIDH の違い

ICIDH では疾患や外傷のみ ICF ではそれ以外にも妊娠や加齢、ストレス状態なども含めた幅広い考え方。

ICIDH では障害や病気の人を対象、ICF では全ての人を対象で、背景因子が導入された。ICIDH は過去のモデルに。

生活機能の3要素

人の健康状態を決めているのは、3つの要素から構成される「生活機能」と考えます。

生活機能 (Function) の3要素とは「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」

生活機能3要素		意味	レベル	具体例	評価方法
心身機能身体構造		身体の生理的機能	生物	身長、体重、 認知機能、麻痺など	生理的システム 解剖学的構造の変化
活動		個人による課題や行為の遂行	個人	食事や入浴など、ADL	能力と実行状況
参加		生活や人生場面への関わり	社会	地域の集まりへの参加、結婚式への出席、コンクールへの応募など	能力と実行状況

ICFでは障害 (Disability) について次のように捉えています。

「機能障害」「活動制限」「参加制約」です。

この3つは、生活機能の3つの要素と以下のように対応

生活機能	障害
心身機能・身体構造	機能障害
活動	活動制限
参加	参加制約

背景因子→環境因子と個人因子

環境因子 自宅や交通機関、自然環境など⇒物的環境

家族や職場の同僚など⇒人的環境

福祉や医療など⇒制度的環境

社会の意識や世論も環境因子

環境因子は生活機能と障害への外的影響を与える。促進因子と阻害因子に分かれる

個人因子は、年齢や性別、職業、ライフスタイルなど、その人固有の特徴。

価値観や個性、健康状況以外の個人の人生や生活の特別な背景のこと。

I C F (International Classification of Functioning, Disability and Health : 国際生活機能分類) における環境因子を表す記述として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 アルツハイマー型認知症 (dementia of the Alzheimer's type) である。
- 2 糖尿病 (diabetes mellitus) があるため服薬をしている。
- 3 医者嫌いである。
- 4 町内会の会長を務めていた。
- 5 娘が近隣に住み、毎日訪問している。

I C F (International Classification of Functioning, Disability and Health : 国際生活機能分類) の社会モデルに基づく障害のとらえ方に関する記述として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 個人の問題としてとらえる。
- 2 病気・外傷から直接的に生じる。
- 3 さまざまな環境との相互作用によって生じる。
- 4 治療してできるだけ回復させることを目的とする。
- 5 医療などによる援助を必要とする。

ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health : 国際生活機能分類) の社会モデルに関する記述として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 障害は、個人の問題である。
- 2 障害は、病気・外傷などから直接的に生じる。
- 3 障害は、専門職による個別的な治療で解決する。

- 4 障害は、環境によって作り出されるものである。
- 5 障害への対処では個人のよりよい適応と行動変容が目標とされる。

ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health : 国際生活機能分類) の視点に基づく環境因子と心身機能の関連を表す記述として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 電気スタンドをつけて、読書を楽しむ。
- 2 車いすを使用して、美術館に行く。
- 3 聴力が低下すると、コミュニケーションがうまくとれない。
- 4 ストレスが溜まると、活力が低下する。
- 5 床面の性状が柔らかいと、バランスを崩す。

ICIDH (International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps : 国際障害分類) における能力障害として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 日常生活動作 (Activities of Daily Living : ADL) の障害
- 2 運動麻痺
- 3 失語
- 4 職場復帰困難
- 5 経済的不利益

Gさん (68 歳、女性、要介護 2) は、小学校の教員として定年まで働いた。

Gさんは、3 年前にアルツハイマー型認知症 (dementia of the Alzheimer's type) と診断された。

夫は既に亡くなっており、長男 (30 歳) と一緒に暮らしている。週に 2 回通所介護 (デイサービス) に通い、レクリエーションでは歌の伴奏をよくしている。

その他の日は、近所の人や民生委員、小学校の教え子たちがGさん宅を訪問し、話し相手になっている。最近、Gさんは食事をとることを忘れていたり、トイレの場所がわからず失敗したりすることが多くなった。介護福祉職が、Gさんの現状をアセスメント (assessment) した内容と、I C F (International Classification of Functioning, Disability and Health：国際生活機能分類) の構成要素の組合せとして、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 アルツハイマー型認知症 (dementia of the Alzheimer's type) は、「心身機能・身体構造」にあたる。
- 2 レクリエーションで歌の伴奏をすることは、「参加」にあたる。
- 3 近所の人や民生委員、小学校の教え子は、「個人因子」にあたる。
- 4 小学校の教員をしていたことは、「環境因子」にあたる。
- 5 トイレの場所がわからなくなることは、「健康状態」にあたる。

Gさん (79 歳、男性) は認知症対応型共同生活介護 (グループホーム) に入居している。

短期目標を「なじみの店で買物ができる (2 か月)」として、月 3 回の買物を計画し実施した。

初回は順調であったが、2 回目にレジで後ろに並ぶ人から、「遅い、早くして」と言われて、H介護福祉職が支払った。

GさんはH介護福祉職に、「ほしい物を選んでも、自分で支払わないと買った気にならん」と言い、その後、楽しみにしていた買物に行けなくなった。

I C F (International Classification of Functioning, Disability and Health：国際生活機能分類) の視点に基づいて介護計画の内容を見直すにあたり、最も配慮すべき構成要素を 1 つ選びなさい。

- 1 身体構造

- 2 個人因子
- 3 心身機能
- 4 環境因子
- 5 活動

④

国際生活機能分類（ICF）に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 対象は、障害のある人に限られる。
- 2 障害を、社会環境から切り離して捉えている。
- 3 健康状況とは、課題や行為の個人による遂行のことである。
- 4 障害を機能障害、能力障害、社会的不利に分類したものである。
- 5 世界保健機関（WHO）により採択され、国際的に用いられている。

国際生活機能分類（ICF）に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 生活機能とは、心身機能、身体構造及び活動の三つから構成される。
- 2 活動とは、能力と実行状況で評価される。
- 3 活動とは、生活や人生場面への関わりのことである。
- 4 個人因子には、促進因子と阻害因子がある。
- 5 参加制約とは、個人が活動を行うときに生じる難しさのことである。

事例を読んで、国際生活機能分類（ICF）に基づいて分類する場合、正しいものを1つ選びなさい。

【事例】Aさん（50歳、男性）は、脳出血により片麻痺を残したが、リハビリテーションによって杖と下肢装具を用いた自立歩行を獲得し、復職を達成した。混雑時の通勤の負担と、思うようにならない気分の落ち込みから仕事を休みがちとなったが、職場より出勤時間の調整が図られ、仕事を再開するに至った。

- 1 片麻痺は、「活動」に分類される。
- 2 歩行は、「心身機能・身体構造」に分類される。
- 3 歩行に用いた杖と下肢装具は、「個人因子」に分類される。
- 4 気分の落ち込みは、「活動」に分類される。
- 5 出勤時間調整の職場の配慮は、「環境因子」に分類される。